

推薦の言葉

～本書は現代版 大圃流『論語』である～

大圃研医師は、若手を代表する内視鏡治療のエキスパートであると同時にトレーニング理論のエキスパートとして、あの“情熱大陸”にも出演した有名な医師であることは周知のことと思います。

“FRIDAY”にも以前“見開き”で掲載されたと聞き、不倫か？暴行か？と、ゲスな勘ぐりをしましたが、彼も当時は独身で不倫とは無縁、また外見とは裏腹に暴力などは無縁な誠実な医師であり（というより最近知りましたが、学生時代は、私と同じ空手部だったとのこと、同じ空手部でも私のような硬派なタイプと彼のような一見軟派なタイプでだいぶ違います）、FRIDAYにはあまり前例がないかと思いますが“内視鏡のエキスパート”ということで紹介され、私の心配は杞憂に終わりました。waveのかかった後ろ髪をなびかせ（？）ESDをしている姿はまるで映画のワンシーンのようであり、マスコミでとり上げられる1つの小さな理由はここにもあるのかもしれませんが。

話は半分脱線しましたが、そんな大圃医師の弟子達への豊富な指導経験をもとに、また弟子からの切なる希望に答える形で本企画が誕生したとのこと。

『論語』は、孔子と彼の高弟の言行を孔子の死後、弟子達が記録した書物ですが、まだ大圃医師が健在ということを除けば、あたかも、現代版『論語—ESD ヴァージョン—』といった感じでしょうか？実際に紙に書いて説明したという何枚ものシェーマに基づき、「第1章 ESDを始める前に」「第2章 知っておきたい！ Tips & Tricks」「第3章 Hands On：大圃流ESDの実践（食道，胃，大腸）」の3章構成で“大圃流”を惜しみなく伝授すべく執筆されています。

大圃医師はほとんど誰の指導も受けず、我流で現在の大圃流を完成させたとのこと。したがって、その1つひとつの動作に理由づけと信念をもってやってきており、その理由づけと信念について、本書ではわかりやすくかつ詳細に解説されています。さまざまな制約のもと実際に大圃道場に弟子入りすることは難しい方も、本書を手にし、熟読することで、あたかも大圃道場への弟子入りを擬似体験できることでしょう。

私は大腸ESDに関してはがんセンター流を主軸に、山本博徳先生・豊永高史先生・矢作直久先生など大腸ESDの先駆者の技術を自分なりにブレンドさせていただいて今の形になりつつありますが、これを機会に大圃流もとり入れてみようかと思いました。

本書を通じて、「大圃流ESD」をマスターすることで、ひとりでも多くの内視鏡医が“より上手く！より早く！”ESDがマスターできることを心より祈ります。

私も卒業試験受けさせてもらえますか？大圃先生？（“情熱大陸”より）

2016年9月

国立がん研究センター中央病院 内視鏡科
斎藤 豊